

令和7(2025)年度

「運営に関する計画」

—最終評価 2026.2.26—

大阪市立南津守小学校

令和8(2026)年 3月

大阪市立南津守小学校 令和7年度 運営に関する計画

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校教育目標、「学ぶ意欲を持ち、自他を大切にすることを育てる」のもと、学ぶことの楽しさを感じさせ、思いやりの心をもった児童の育成に取り組んでいる。

令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対し、最も肯定的な回答をする児童は市平均を上回っているが、「自分には、よいところがあると思いますか」への肯定的回答は市平均を下回っており、自己肯定感を高める教育活動の充実に努めていく。不登校、遅刻の多さは課題ではあるが、登校支援員の働きかけやスペシャルサポートルームの設置により、複数の児童は改善傾向にある。

また、経年調査の対市比、全国学力・学習状況調査の対全国比ともに平均には達していない。経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し、最も肯定的な回答をする児童は市平均を下回っており、教育活動の中で互いに考えを交流しあう機会を増やし、学力の定着を図る必要がある。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は全国平均にわずかに及ばないが、経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な回答をする児童は市平均を上回っており、体育的活動を充実させてきた成果がみられる。

教職員の超過勤務がなかなか減らない状況であるが、ICT 機器や図書室など既存の教育環境の効果的な活用をすすめ、タイムマネジメントができる組織にしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、9割以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査における「人の役に立ちたいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、9割以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査、校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、令和3年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における標準化得点を令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を大阪市の平均値以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査、校内調査から「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査における「タブレットパソコンを使うことで、勉強がわかりやすくなりますか」の項目において、肯定的な回答割合を令和4年度1回目と比較し10%向上させる。
- 令和7年度の超過勤務時間平均を令和4年度（31時間30分）より減らす。
- 令和7年度末の校内調査における「授業で南津守地域のことを調べたり、考えたりすることがありますか」の項目において、令和4年度の2回目と比較し、肯定的な回答割合を同等以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を85%にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R6→R7 82.5%→86.5%)【達成】

- ・年度末の校内調査「学校は、楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
(R6→R7 89.1%→92.5%)【達成】

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。
(R6→R7 70.9%→75.0%)【達成】

- ・年度末の校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
(R6→R7 76.3%→81.0%)【達成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
(R6→R7)

4年国+2 4年算+3 5年国+15 5年算+3 6年国-3 6年算-7
【未達成】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を34.5%以上にする。
(R6→R7 33.9%→41.4%)【達成】

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。
(R6→R7 70.4%→63.9%)【未達成】

- ・年度末の校内調査「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を72%以上にする。
(R6→R7 71.2%→72.8%)【達成】

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)

(R6→R7 2.1%→15.7%)【未達成】(R7活用平均は73.7%)

・年度末の校内アンケート「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで楽しみながら学習を進めることができる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。

(R7 90.1%)【達成】

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を85%にする。

(R7 80.1%)【未達成】

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

(R6→R7 66.6%→62.5%)【未達成】

・年度末の校内調査(1-6年)「本を読むことは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

(R6→R7 72.1%→67.7%)【未達成】

(様式2)

大阪市立南津守小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R6→R7 82.5%→86.5%) 【達成】 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。 (R6→R7 70.9%→75.0%) 【達成】	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【安全・安心な教育環境の実現】 児童同士の繋がりを深め、困ったときに助け合える仲間づくりを、すべての教職員が連携しながら進めていく。	A
指標 年度末の校内調査「学校は、楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R7末 92.5%) 【達成】	
取組内容② 【安全・安心な教育環境の実現】 人権教育の継続的な実践や道徳教育の充実などに取り組み、自己肯定感を高めるとともに、自他を認め合う態度を育てる。	A
指標 年度末の校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。(R7末 81.0%) 【達成】	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① 【安全・安心な教育環境の実現】 ○ 子ども同士で話し合い、解決する力がついてきた。 → トラブルが起きても、事案に合わせてみんなで考える場を設けて、先生任せではなく、自分たちで「どうすればいいか」を話し合えるようになった。 → ペアやグループ活動が増え、多様な意見を比較・検討し、お互いの違いを認め合える雰囲気づくりを行い、日々の授業で自分の意見を言える児童が増えた。 ○ 多様な関わりを通じて仲間意識を深めることができた。 → 係やレクリエーション、総合的な学習の時間(福祉学習等)を通じて、特定の児童だけでなく誰とでも仲良く協力できる関係づくりができた。 → 久しぶりに登校した児童を自然に受け入れて、誰も仲間外れにしない空気が育っている。

○ **自分が役に立っていると実感できる環境ができた。**

- 友だちへの思いやりを教職員がしっかり認めることで、良い行動がクラスの当たり前になった。
- 道徳・社会・人権学習と連動させた横断的な指導を通じて、知識が実際の行動に繋がるようになった。
- お互い様の気持ちが広がり、困っている子がいたら自然にサポートする姿が日常的に見られた。

○ **教職員間で連携することで、安心・安全な場所づくりを進めた。**

- 学年の先生間が情報共有することで、一人ひとりの変化を複数の目で見守ることができた。
- 教職員がポジティブな声掛けで児童と接することで、児童の安心感を高めることに繋がった。
- 悩みを抱える児童への早期対応により、大きなトラブルを防ぎ、登校に不安がある児童へ効果的なアプローチができた。

取組内容②【安全・安心な教育環境の実現】

○ **個々の児童の自信を育む取組みを実践できた。**

- 「できるようになったこと発表会」などの成功体験を通じ、新しいことにも「やってみよう」と挑戦する児童が増えている。
- 社会見学等の行事で役割をやり遂げ、認められる経験が本人の自信につながった。
- 周りに流されがちだった児童も、自分の意見を発表する経験を通して、自分の考えを言葉にできるようになった。

○ **お互いを認め合い、支え合う雰囲気づくりを進めた。**

- 「ありがとうカード」「すごいねカード」の活用で、友だちの良いところを見つける習慣が身についた。
- 道徳教育や福祉学習を通じて、得意・苦手などの「違い」を個性として認め合い、助け合おうとする児童が増えた。
- 道徳学習での知識として学びを、実際の行動に移せる児童が増えた。

○ **ICT活用による見守り体制の補完を実施した。**

- タブレット端末（スクールライフノート）で毎日の「心の天気」や相談機能をチェックし、小さなSOSも逃さずサポートする体制ができていた。

次年度に向けた改善点や重点的に取り組む内容 等

取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】

○ **児童どうしが互いに助け合い、高め合う関係づくりの推進**

- 単に仲が良いだけでなく、お互いの成長のために「間違っていることはきちんと伝え合える」関係を育てる。
- 「ありがとう」「大丈夫？」といった温かい言葉（ふわふわ言葉）の活用を進めるとともに、それに対する返答のバリエーションを具体的に指導することで、より質の高いコミュニケーションが交わされるようにする。

○ 一人ひとりに寄り添った「多様な学び・つながり」の支援

→ 学校内での支援だけでなく、学校外の機関とも連携して家庭と学校を結ぶ窓口を積極的に広げながら、登校に不安を感じている児童に安心感を与えていく。また Google クラウドルームなどを活用したオンライン交流も学校と繋がる手立ての1つとして、活用を視野に入れる。

○ 自信を育み、自己肯定感を高める「居場所づくり」

→ 「自分は役に立っている」という実感を児童が持てるよう、話し合い活動やピア・サポート（子ども同士の助け合い）の機会を増やす。

→ 学校行事などを有効活用し、一人ひとりの特性に応じた役割（リーダーシップ）を発揮できる場面を意図的に設定することで、集団の中での自己肯定感を育てる。

○ いじめ防止に向けた具体的な取組みの実践

→ いじめを未然に防ぐため、具体的な場面を想定したロールプレイング等を通じ、人権意識を行動に移す力を養う。

取組内容②【安全・安心な教育環境の実現】

○ 相手の良さを認めるところから、自分の自信につなげていく意識づけ

→ 「いいところ見つけ」の習慣化していくことで、友だちから自分の良さを教えてもらう経験を重ねていき、次第に自分を認めようとする気持ちを育てる。

→ 「できないこと」に悩む児童には、短所を長所に捉え直す働きかけを行い、自分の強みに気づかせる。

→ 児童一人ひとりの個性を教職員がしっかり価値づけし、その児童なりの「小さながんばり」を認めていく。

○ 学んだことを「生活」に活かす道徳の推進

→ 道徳で学んだ「思いやり」や「誠実さ」が、実際の休み時間や係活動で生かせるように指導して、状況に合わせて振り返る時間をもつ。

→ 授業の終わりに「自分ならどうするか」を書くことで、学びを自分の成長につなげる。

○ 学年の枠を超えた交流で、社会性を育む

→ 他学年との交流や協働学習を通して、下級生に教えたり上級生を目標にしたりする機会をつくる。

→ 普段のクラスとは違う集団と過ごす中で、「頼られる自分」や「新しい自分の役割」に気づくきっかけをつくる。

大阪市立南津守小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況															
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4年生</td> <td>5年生</td> <td>6年生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>+2</td> <td>+15</td> <td>-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>+3</td> <td>+3</td> <td>-7</td> <td>【未達成】</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。(R6→R7 70.4%→63.9%) 【未達成】 		4年生	5年生	6年生		国語	+2	+15	-3		算数	+3	+3	-7	【未達成】	B
	4年生	5年生	6年生													
国語	+2	+15	-3													
算数	+3	+3	-7	【未達成】												

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>1日1回、話し合い活動ができる授業づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を34.5%以上にする。</p> <p>(R6→R7 33.9%→41.4%) 【達成】</p>	B
<p>取組内容② 【健やかな体の育成】</p> <p>年間を通して、たてわり活動や体育科の充実を図り、学級の外遊びの啓発を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を72%以上にする。</p> <p>(R6→R7 71.2%→72.8%) 【達成】</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】

- 「話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている」と最も肯定的な回答は41.4%で目標(34.5%)を達成した。
 - 年間を通して、ペア学習や班活動などで1日1回の話し合い活動を継続したことが定着につながった。
 - 市平均(41.6%)と同程度まで向上し、取組の成果が確認できた。
- 話し合い活動の「量」は確保でき、児童が自分の考えを伝える力が伸びた。
 - 座席配置の工夫により、話し合い活動を活発なものにすることができた。
 - ICTの活用、個人→ペア→全体化の話し合いの流れは、話し合いの活性化に有効であった。
 - 「考えを深める・広げる」段階まで至らない児童もいたこと、発表する児童の固定化する傾向がみられたこと、自信をもてない児童に対する個に応じた支援の工夫のあり方などの課題が明らかになった。
- 学力経年調査における平均正答率では、4年生・5年生で目標(前年度より1ポイント向上)を達成し、6年生は達成しなかった。
 - 計算タイムや話し合い活動の継続的な実施は学力向上に一定の効果を示した。
 - 6年生は平均正答率では目標に至らなかったが、個人の結果比較では目標を達成した児童も相当数いた。学力の二極化拡大を防ぐ工夫や学習に課題のみられる児童への効果的な個別支援のあり方を一層強化する必要がある。

取組内容②【健やかな体の育成】

- 「運動やスポーツが好き」と回答した児童の割合は、学力経年調査 63.9%(未達成)校内調査 72.8%(目標達成)であった。調査方法の違いはあるが、校内調査では、目標値を達成した。
- 体育科の授業改善を行った。
 - 体育科の年間指導計画をもとに、単元ごとのねらいや系統性を意識して授業計画を各学年行った。児童の実態や環境条件を踏まえ、活動内容や単元の入替を調整する工夫を通して、「できた」「楽しい」と感じられる経験を大切に、達成感を味わえる活動を取り入れることで、児童が主体的に活動できる授業デザインを行った。
- 年間を通じ、「早寝・早起き・朝ごはん」調べを継続的に実施できた。
 - 健やかな体の育成の基本となる生活リズムに着目して実施した。また、結果をもとに学年や児童の実態に応じて、児童の基本的な生活リズムの改善に向けた啓発を行った。
- なわとび集会・かけ足活動にも積極的に取り組む姿がみられた。
 - 自分の学年の割り当てでない日も走りにいくなど、楽しそうに取り組むことができた。たてわり班で行うことで、異学年交流ができたのでよかった。
 - 上半期よりも運動場に出る回数が増えた。

次年度に向けた改善点や重点的に取り組む内容 等

取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】

○ 一人ひとりの基礎学力の向上

- 自分の考えや意見を持つための基盤となる基礎学力の向上を図る。
- 計算タイムは、来年度も継続して行い、四則計算の流暢性を高める。

○ 話し合い活動の活性化

- 書く時間・考える時間の保障など、自分の考えをしっかりとらせる時間を確保することなどを通じて、意見を持ちにくい児童の不安を軽減し、安心して発言できる基盤をつくる。
- 話し合いのルールや進行役割の明確化、全員が発表できる仕組みをつくる（指名の工夫・ランダム指名など）ことで、発表する児童の固定化を防ぎ、多様な考えを共有できる話し合いの実現をめざす。
- 思考を深める発問（比較・理由付け・根拠提示など）を工夫し、「話し合うこと」自体を目的とせず、学力向上につながる話し合いへ質を高める。

○ 話すことに自信がもてない児童への支援

- ペアやグループ編成を工夫したり、話型（話し方のモデル）を示したりする。発言や発表に自信のない児童も参加しやすく、児童同士が安心して意見交換できる関係づくりを進める。
- 「安心して話せる」学級の雰囲気醸成を継続する。

取組内容②【健やかな体の育成】

○ 外遊びに消極的な児童への啓発

- 個々の希望がくみ取られ、バリエーションの工夫された「みんな遊び」の時間を増やす。
- 暑い時期でも安全に体を動かす工夫や、寒くなっても運動に取り組む習慣化など、季節に応じた身体を使った遊びを提示する。
- 運動委員会を中心に、だれもが運動に親しめるような取組を実施する。

○ 一輪車や竹馬など、運動用具の整備

- 環境を整えることで、外遊びの興味をもつ児童を増やす。補助運動の有効的指導を行い、基礎的な体力向上を図る。
- 休み時間に高学年が低学年の竹馬の補助をするなど、運動に親しむための取組を企画する。

○ 体育科授業の工夫や改善の推進

- 体育科実技研修を年間2回以上行う。
- 引き続き、児童の実態や環境条件を踏まえ、活動内容や単元の入替などを行い、主体的に取り組め、楽しさや達成感を味わえる授業デザインを進める。

大阪市立南津守小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) (R6→R7 2.1%→15.7%) 【未達成】 (活用平均 R6→R7 63.5%→73.7%) 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を85%にする。 (R7 80.1%) 【未達成】 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 (R6→R7 66.6%→62.5%) 【未達成】 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>学年別 ICT 活用スキル一覧表の整備や更新を行うとともに、日々の授業や係活動や委員会活動での利用など、学習者用端末などの ICT 機器を活用する場면을積極的に設定する。</p>	B
<p>指標</p> <p>年度末の校内アンケート「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで楽しみながら学習を進めることができる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</p> <p>(R7 90.1%) 【達成】</p>	
<p>取組内容② 【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>学校閉庁時刻を19時(週に1回は18時)に設定することで、タイムマネジメントを意識した働き方改革を行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない教職員の割合を85%以上にする。</p> <p>(R7 80.1%) 【未達成】</p>	

<p>取組内容③【生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館や蔵書の積極的な活用、委員会活動の活性化などを通して児童が本に触れる機会を増やし、読書への興味関心を高める。</p>	
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査「本を読むことは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p> <p>(R6→R7 72.1%→67.7%)【未達成】</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末アンケート肯定的回答 90.1%で目標(87%以上)を達成した。 <ul style="list-style-type: none"> → ICT 活用は児童の学習意欲の向上につながっている。一方で、さらなる質の向上が必要である。 ○ ICT 活用スキル一覧表の整備・更新を行い、授業や係活動・委員会活動などで積極的に活用した。 <ul style="list-style-type: none"> → 計画的な活用体制は整ってきており、今後は活用内容の精選と系統性の強化が課題である。 ○ 各教科における日常的な場面や総合的な学習の時間、調べ活動、デジタルドリル、タイピング練習など、多様な場面でICT機器を活用した。また、画像検索や意見の整理、課題提出など、学習ツールとして日常的に活用する場面が増えた。 <ul style="list-style-type: none"> → 九九学習、漢字練習など体験的活動や反復練習との相性が良く、学習効果を高める可能性がある。 → 協働的な学びや主体的な活動を支えるツールとして有効に機能している。 → ICT が特別なものではなく、日常的な学習ツールとして定着しつつある。 ○ Google クラウドルーム、Canva、Skymenu、ナビマ、心の天気など、多様なツールを活用した実践を継続できた。 <ul style="list-style-type: none"> → 教科横断的な活用は進んでいるが、学習目標に即した効果的活用をさらに意識する必要がある。 → 活用の幅は広がっているが、ツール選択に迷う場面もあり、目的に応じた使い分けの整理が必要である。 ○ 低学年ではICT機器に慣れる段階から取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> → 基礎的操作技能、特に文字入力技能の向上が今後の活用拡大の鍵となる。 ○ 学習ノートやワークシートとの両立が難しく、使用できない日もあった。 <ul style="list-style-type: none"> → 紙媒体との効果的な使い分けや、指導計画の見直しが必要である。 ○ 学年や教員によって活用状況に差が見られた。 <ul style="list-style-type: none"> → 校内研修や実践事例の共有を通して、活用の平準化を図る必要がある。 	

取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- 日々、退勤セット時刻を提示することで、退勤時刻を意識して働くことができたが、目標（85%以上）は達成できなかった。
 - タイムマネジメントの意識は着実に向上し、17時台に退勤する職員が増えてきた。
 - 退勤時刻や業務の進捗を視覚的に共有する取組は有効であり、働き方を意識する風土づくりにつながっている。
 - 退勤時刻の明確化はタイムマネジメントへの意識づけや行動改善に効果があったが、業務量そのものの削減には課題が残る。
- 日々の連携や情報共有を図ることで、従来通りの児童状況把握や業務管理をしながら会議の回数を縮減した。
 - 会議の効率化が進み、時間の有効活用につながっている。
 - すきま時間の効率的な活用に取り組むなど個々の工夫は見られるが、組織的な仕組みとしての定着が今後の課題である。
- セット時刻は守れたが、パソコンを持ち帰って仕事をしていることが多い。
 - 表面的な在校時間は短縮されているものの、実質的な時間外勤務の削減には至っていないこともある。
 - 業務の平準化や効率化が進んでいるが、さらなる整理・統合の余地がある。
 - 個人の意識改革は進んでいるが、目標指標（45時間以内 85%）の達成には組織的な業務改善がさらに必要である。

取組内容③【生涯学習の支援】

- 本に親しむ機会が増え、読書意欲や興味関心を高めることができた。
 - 授業と連携した図書室の利用が進んだ。
 - 積極的な本紹介活動やビブリオバトルに取り組み、児童の関心を広げた。
 - 児童によるおすすめの本紹介は、校内掲示だけでなく、大型書店や西成図書館とも連携しながら実施した。
- 年間を通して、読書の頻度は確保できた。
 - 朝の読書タイムやすきま時間の活用で読書習慣は定着しつつある。
 - 授業と連携した図書室の利用が進んだ
- 読書推進活動が学校全体で行えた。
 - 読書マラソンの掲示や保健室での書籍活用など、読書に向かう環境づくりができた。
 - 保健室など、他教室にも書籍を置き、本に触れる機会が増えた。
- 読書活動の活性化に向けた環境整備が進んだ。
 - 各学級に配備されたブックトラックには、児童の興味関心や学習内容に即した本が並べられ、学級文庫が充実した。また、選書活動も進み、学習内容に即した書籍が手に入りやすくなった。
 - 図書室の整備が進み、主幹学校司書の配置により図書の管理や活用がしやすくなった。
- 図書室運営の専門性が向上した
 - 主幹学校司書の配置により、図書室整備や児童への支援が充実した。
 - 新刊や貸出情報が学校全体で共有され、活用しやすくなった。

○ 個人差や課題も明らかになり、目標は達成できなかった。

→ 本への親しみには個人差が大きく、図書の時間確保や自分で読むことが好きな児童の割合は課題として残った。

→ 図鑑（写真や絵）中心の児童も多く、文字のある本への意識転換が必要である。

次年度に向けた改善点や重点的に取り組む内容 等

取組内容①【教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

○ 文字入力スキルの向上や活用モデルの構築など、計画的・段階的な実践

→ 低学年から文字入力を円滑にすることで、ICT 活用の幅を広げ、主体的な学習活動につなげる。

→ ICT 活用事例を整理しながら、発達段階に応じた無理のない活用を進めることで、ICT 活用の定着を図る。

○ 日常的に ICT を学習ツールとして活用できる授業展開の工夫の継続

→ 「使うこと」が目的化しないよう、学習目標に即した効果的活用を進める必要がある。

→ 授業で意見をまとめる際のツールの一つとし ICT を活用する機会を増やすことで、思考の可視化や表現力の向上につなげ、協働的な学びの充実をめざす。

○ Google クラウドや Canva、心の天気・ナビマ等の積極的活用の推進

→ 児童理解や学習管理の充実、個に応じた指導の推進につなげていく。

→ 「何を・どの場面で・どのように使うか」を明確にし、授業改善につなげる。

→ アプリケーションの効果的活用、具体的な活用事例を共有するための校内研修を充実させ、教員の ICT 活用力の底上げと ICT リテラシー向上を図る。

→ 学年・教員間の活用状況を把握し、支援体制を整える。学校全体で組織的な推進体制を強化することで、実践力の向上と活用の質の均一化を図る。

○ 児童の家庭での活用に向けた取組の推進

→ 端末持ち帰りの準備や家庭における活用内容の検討を具体化する。

取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

○ 学校閉庁時刻(19 時・週 1 回 18 時)の徹底とタイムマネジメント意識の向上

→ 緊急度・重要度を整理し、真に必要な業務に集中できる体制を整えることで、時間外勤務の縮減を目指す。

→ 退勤時刻の可視化やゆとりの日の取組を継続するとともに、組織全体で働き方を見直す風土の定着を図る。

→ 業務の優先順位をはっきりさせておき、退勤時刻から逆算した業務遂行を徹底し、日常的な時間管理能力の向上につなげる。

○ 業務量の削減

→ 学年・分掌・部ごとの連携を強化し、業務の分担と平準化をさらに推進する。

→ 「持ち帰り業務を前提としない働き方」を目指し、業務内容の精選・削減を進める。

→ 組織全体で業務改善を検討する機会を設け、個人任せにしない仕組みづくりを行う。

取組内容③【生涯学習の支援】

○ 読書の機会と環境のさらなる充実

- 図書的时间確保や読書環境の整備を継続し、児童が自分で本を読む機会を増やす。
- 読書への興味関心を高める活動（面白い本紹介、私のおすすめ本紹介）を増やす。
- 団体貸し出しの積極利用などによる並行読書の促進や多読・深読の働きかけを強化する。
- 各学級や学年に合わせた本の選出・紹介を積極的に行う。

○ 「児童個々の興味・読書スタイルの差」に対応する個別戦略の展開

- 本に興味関心が低い児童へのアプローチを検討する。
- 図鑑中心の読書から、文字のある本（絵本・物語）への意識切り替えを図る工夫を行う。

○ 図書室の学習活用や読書意欲の向上を意識した工夫

- 教科横断的に書籍を活用し、学習の場としての図書室利用を推進する。
- 学習の場としての図書室利用を推進し、学習と読書の相乗効果をさらに高める。
- 図書室が身近で使いやすく魅力的な場所となるよう、選書や整備を継続する。